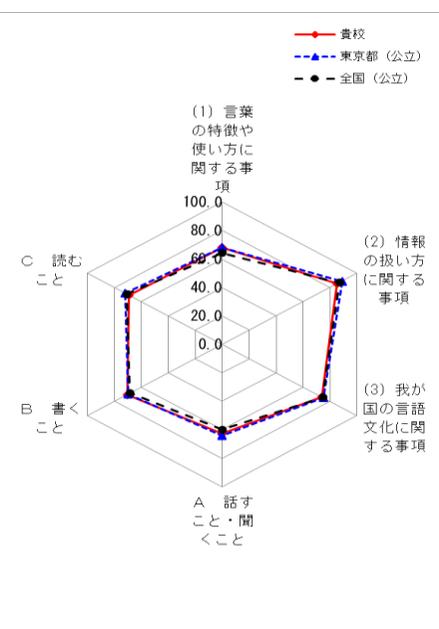


令和6年度 全国学力・学習状況調査 結果の分析 【国語】

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)			
			貴校	東京都(公立)	全国(公立)	
全体			14	69	70	67.7
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	4	68.0	67.9	64.4
		(2) 情報の扱い方に関する事項	1	85.2	88.8	86.9
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	73.8	75.3	74.6
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	62.8	63.9	59.8
		B 書くこと	2	70.5	69.9	68.4
		C 読むこと	3	69.4	71.9	70.7
評価の観点	知識・技能	6	71.9	72.6	69.8	
	思考・判断・表現	8	67.2	68.4	66.0	
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	10	73.0	73.0	69.9	
	短答式	2	58.2	63.1	59.7	
	記述式	2	61.5	63.7	64.6	



【考察】

○全体として、全国平均から1.3ポイント上回っている。評価の観点別にみても、「知識及び技能」「思考・判断・表現」共に全国平均を上回った結果となった。今後も言葉の特徴や使い方に関する事項について基礎基本を固めながら、思考力・判断力・表現力を伸ばしていく。

○問題形式では、記述式は3.1ポイント全国平均から下回っているが、昨年度の結果と比べると、2.7ポイント全国平均に近づいている。学校行事ごとに作文を書く活動を継続的に行うことで、自分の考えを表現し、まとめる力が身につけてきたと考えられる。また、このような活動を行い、教員がしっかりと価値づけてきたことで、書くことへの抵抗感が少ない児童が多いと考えられる。今後も、日頃から、自分の考えを書いて表現したり、聞いたことをまとめたりするなど、記述して表現する活動を積極的に取り入れたい。その他にも、よむYOMUワークシートや詩などを活用し、手本となる文章に触れる機会を設けたり、友達との交流の中で豊かな表現方法を身につけさせたりしていく。

○「話すこと・聞くこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」に関して、どちらも全国平均を3ポイント以上上回っている。国語科に限らず、様々な授業で、その学習内容に適した意見交流の方法を積極的に取り入れることで、話し方や聞き方を身につけてきたと考えられる。また、学級文庫を充実させることで、読書に興味をもつ児童が増えているようだ。読書を通して、言葉の使い方や表現方法を身につけることができる。国語科で学んだことを授業内で終わらせるのではなく、友達との対話や読書に繋げていけるよう、今後も様々な場面で対話を取り入れたりと、多くの本に触れられる環境を整えたりしていきたい。